

次期堺市教育振興基本計画

1 策定の趣旨と次期計画の位置付け

2 次期計画策定に向けた本市の取組

3 次期堺市教育振興基本計画の体系について

4 次期堺市教育大綱との整合性

策定の趣旨と次期計画の位置付け

趣 旨

教育基本法第17条第2項に規定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、本市の教育の充実に向けた基本的な方向性を示す。

（参考）教育基本法第17条第2項

「地方公共団体は、前項の計画（※）を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない。」

※前項の計画：国が定める教育振興基本計画。第4期計画が令和5年度に閣議決定された。

計 画 期 間

令和8年度 令和12年度
• 5年間 •

社会状況の変化等に応じて、
随時、取組の見直しを行う。

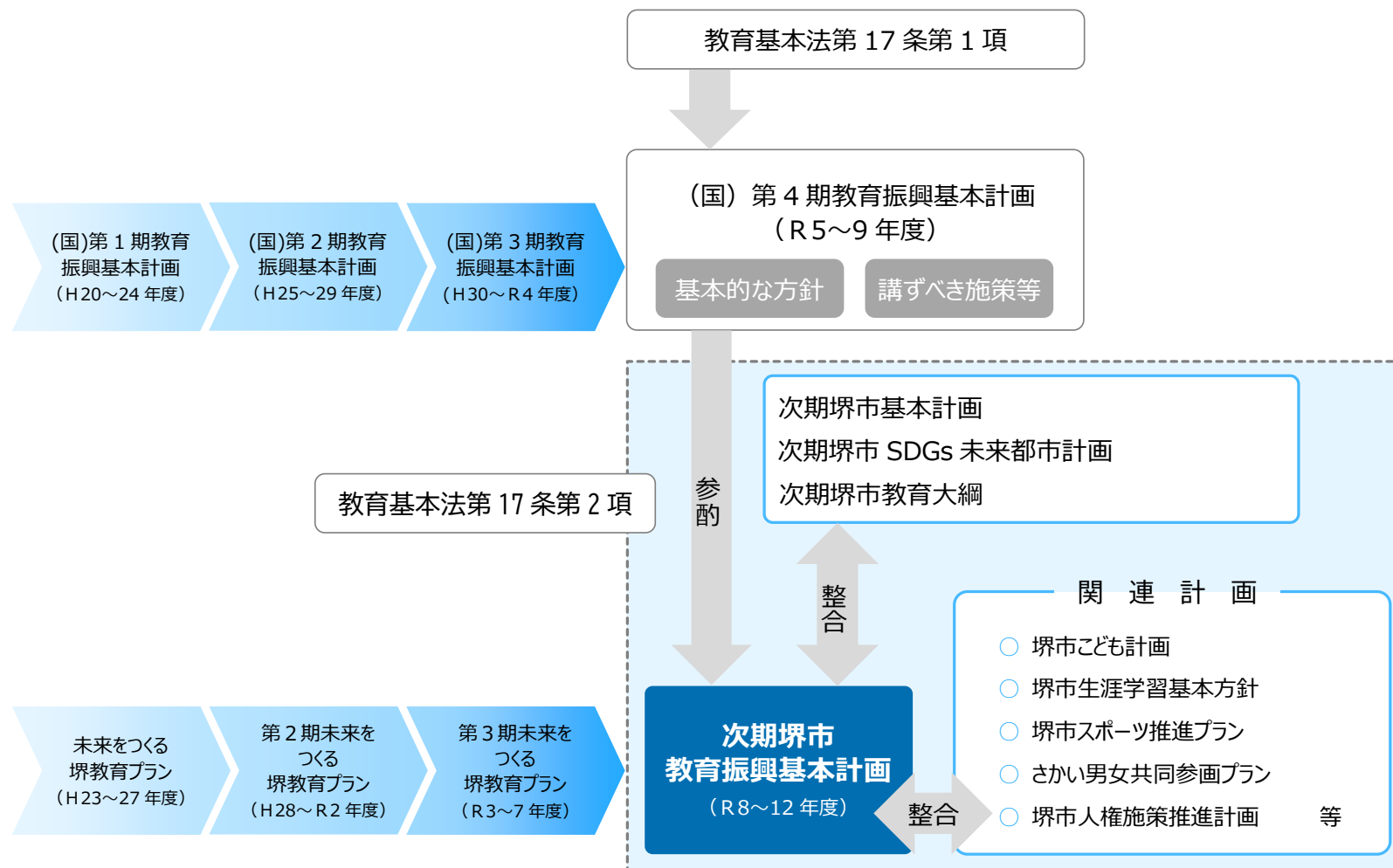
計 画 の 範 囲

学校における教育を軸として、家庭、地域社会も含めた教育に関わる取組を範囲

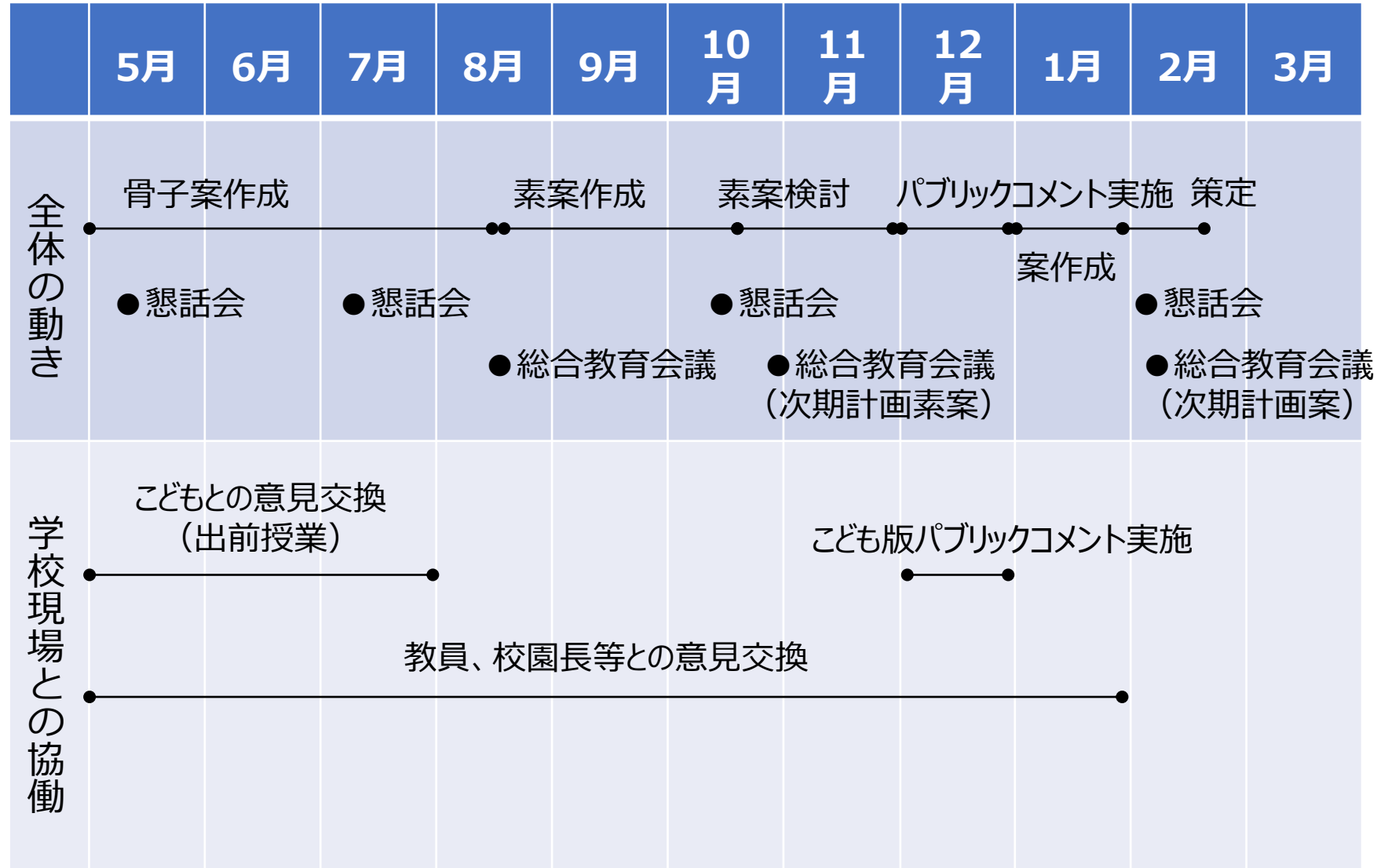


次期計画の位置付け

国の第4期教育振興基本計画を参酌し、堺市教育大綱や堺市基本計画等との整合を図る。



次期計画策定スケジュール



次期計画策定に向けた本市の取組

次期計画策定に向けたコンセプト

こどもを含む本市教育に携わるすべての人が、市の教育を**自分事**と捉え、**次期計画で示す教育ビジョンを納得、共通理解**した上で、**主体的・協働的に教育活動に取り組めるようになる**ことをめざす。

第3期プラン策定時

<庁内委員会>

- ・代表校園長（4名）
- ・教育委員会事務局
- ・市長公室
- ・市民人権局
- ・子ども青少年局
- ・健康福祉局



<懇話会>

- ・有識者（7名）



新たな取組を加え**拡大**



<学校現場> **NEW**

- ・こども（生徒会の集い、出前授業）
- ・校園長（校園長会での報告）

教職員、教委事務局 ワーキンググループ(WG) **NEW**

<庁内>

- ・庁内全局（照会）



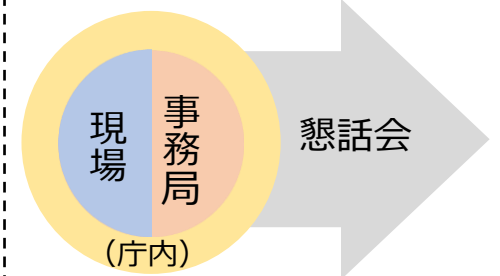
<懇話会>

- ・有識者（10名）



懇話会との関連イメージ図

意見交換の内容を土台として
懇話会の議論につなげる



こどもの意見の取り入れに関する取組

目的

- ・こども基本法の観点（下記参照）から、**市内の児童・生徒の意見を次期計画に取り入れる。**
- ・児童・生徒が次期計画をより**“自分事”**として捉え、**自分たちが受ける教育について主体性**をもつ。

方法

- ・令和7年1月実施の「**生徒会リーダー講習会**」にて、生徒会代表生徒が意見交換。
- ・令和7年度、希望校での**出前授業**を実施。



議題

- ・次期計画に関わる分野から議題やテーマを設定して取り組む。

ワークショップ型の
グループ協議



次期計画に関わる分野	議題 テーマ （例）
授業改善・学力向上	「好きな学び方、好きな授業」など
ICTの利活用（教育DX）	「児童生徒用PCを使ってできること、したいこと」など
人権教育・不登校対応	「みんなが安心して通える学校に必要なことは？」 「これからの学校の通い方」など

（こども基本法 第一章総則 第三条より抜粋）

三 全てのこどもについて、その年齢及び発達に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること。

四 全てのこどもについて、その年齢及び発達に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されること。

第3期未来をつくる堺教育プラン



堺教育プランって何のこと？

堺市の教育の方向性について書かれているもの。
今の時代にどういったことを学校で学んだらいいのか、どんな教育が必要なのかを示し、市内のどの学校でも同じ目的をもって授業などの教育活動ができるように作られています。

よくわからへんなあ。
ということが書かれている？



堺市の教育が大事にしているところや、目標が書かれています。その目標を達成するための取組。たとえば、「ICTを活用した授業改善」や、「学校のトイレや空調などの施設整備」、「安全・安心でおいしい給食の提供」など、授業だけでなく、学校に関わる様々な取組が書かれています。

今の堺教育プラン 令和3年度～7年度

現在は2026年からはじまる次のプランを作っている最中です。様々な方の意見を聞く中で、実際に授業を受けている生徒のみなさんにしかわからない視点からの意見も取り入れ、みんなにとってよりよい学校、授業、教育活動をめざしています。



活動の流れ

事前課題

事前課題として、議題に基づく2つの質問について、それぞれ2テーマずつ、計4つの質問に対する意見をteamsを使って、共有しました。
例) 議題「みんなが『わかる』『できる』ようになる授業とは」
→①「私の学校の楽しい授業・学びになる授業」②「授業や勉強が『わからない』『できない』時の私の対処法

教育長への質問

当日はまず関百合子教育長と質疑応答。「教育長という仕事のやりがいとは」「ICTのよりよい活用とは」「堺市に来てよかったところは」「なぜ義務教育は中学校までなのか」「6月からはじまる給食で楽しみにしているところは」など、質の高い質問。教育長からは深く、かつわかりやすい回答をいただきました。リーダーフォーラムに向けての気持ちがぐっと高まりました。

グループ協議

事前課題の内容をもとに、それぞれ2つの議題について意見交換をしました。「うちの学校では～」と、学校代表として、堂々と意見を言い、そして教育長からのお話にもあった「対話」を意識して、互いの意見を真摯に受け止めていました。「時間が足りない！」という声もよく聞こえるくらい、一生懸命に堺市の教育について協議しました。

まとめの作成

2つの議題から1つ選んで、模造紙でまとめを作成。時間がないうち、構想を練り、役割を分担し、時間内で可能な範囲、かつ内容が深くなるように議論も続けながら、作成していました。互いに「字がきれい」「それいいな」などとポジティブな声かけをしながら、和気あいあいと作成しました。最後は、グループごとの発表も行い、充実した時間となりました。

2025年1月 リーダー講習会 リーダーフォーラム 参加生徒（各校生徒会代表生徒 計16名）

A グループ		
東百舌鳥中学校	殿馬場中学校	浜寺南中学校
長尾中学校	登美丘中学校	泉ヶ丘東中学校 (A)
B グループ		
さつき野中学校	津久野中学校	宮山台中学校
金岡南中学校	泉ヶ丘東中学校 (B)	
C グループ		
月州中学校	大泉中学校	美木多中学校
晴美台中学校	鳳中学校	

生徒会リーダー講習会実施内容

令和7年1月24日(金)

リーダーフォーラム 意見のまとめ

目的

次期教育プランに
自分たちの意見を反映させる
自分たちの受ける教育に
主体性を持つ



自分たちの教育は自分たちで作る!

議題

みんなが『わかる』『できる』ようになる授業とは

学校でICTを使ってできること、したいこと

一人ひとりが安心して通える学校とは

考えたことや意見

みんながわかる/できる/ようになる授業とは

簡潔にまとまっている
小話を途中で入れてくれる
たとえ話があると分かりやすくなる
一人だけで進めるのは記憶に残りにくい
勝手に一人でしゃべっている先生の授業は嫌だ
パワーポイントや授業の構成がうまい先生の授業

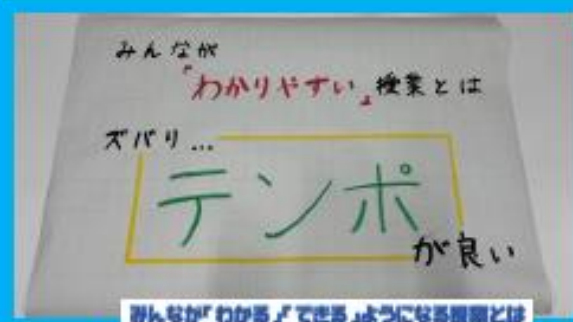
勢いが大事!

学校でICTを使ってできること、したいこと

月一タイピングマッチ
ドリルパークみたいな教育系のアプリを入れる
テストで偏差値を出してほしい
パワーポイントを使っている調べ学習
ホワイトボード機能等を使っている授業
調べたことをパワーポイントで資料作り

まとめ

普段受けている「わかりやすい」授業について協議していく中で、「テンポ」が大切だと意見が一致しました。多くの先生の授業が「楽しい」「わかりやすい」という前提のもと、パワーポイントのアニメーションを適切な長さに設定したり、たとえ話や小話が長くなりすぎないようにしたり、適度に質問を生徒に投げかけたりしてくれると、授業がよりわかりやすくなる。とまとめました。



みんながわかる/できる/ようになる授業とは

考えたことや意見

学校でICTを使ってできること、したいこと

自分で調べる能力 情報共有よき
紙を使った授業はPCより信用がある
数学だと図形の動きがわかりやすい
自分で考える時間が減ってしまう 提出物が楽
紙の方がいつでも使える 個人情報の漏洩
資料が作りやすくなった 授業と関係のない利用

SOGs よき

盗撮

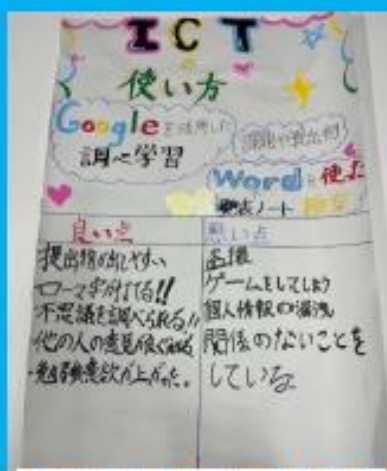
一人ひとりが安心して通える学校とは

気軽に相談したい
他人と比べてしまう
自分はこう思われているのか

勉強 成績 将来 多様な不安 受験
人間関係 ウイルス 自分自身

まとめ

中学生の、ICTの活用方法について考え、その中で良い点、悪い点について整理しました。
調べ学習で使用したり、課題や提出物で使ったり、発表ノートを用いた発表をしたり、様々な形で使用しています。良い点として、ICTによって提出物が出しやすくなった、ローマ字が打てるようになった、不思議を自由に調べられるなどある反面、不要、不適切な使い方を止めたいと話していました。



学校でICTを使ってできること、したいこと

考えたことや意見

みんながわかる/できる/ようになる授業とは

孤立してしまう生徒には先生と一対一で話せるような状況づくりが大事?
自習室でわからないところをカバー
基礎固めのための放課後の自習時間
クラスの学力差→話しにくい環境
互いに協力したり質問ができる環境
クラス数が多いと仲の良い子で固まってしまう

毎時間の振り返り
振り返りの重要性

一人ひとりが安心して通える学校とは

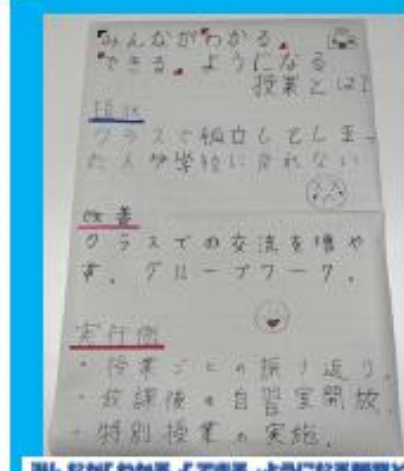
一つでも居場所を作っておけることが大事
一度タイミングを逃すとうまく戻れない
定期的に他クラスとの交流→クラス替えに対応
転校生にも配慮した環境づくり

交流の場

まとめ

「クラスで孤立すると学校から離れてしまい勉強についていけなくなる」という現状を、どのような改善・取組ができるのかまとめました。
改善としては、クラスでの交流や、グループワークを増やしてほしいと意見しました。

具体的には、特別授業や自習室の開放などがあれば、より多くの人と交流することができ、孤立を減らし、勉強もがんばれるのではないかとまとめました。



みんながわかる/できる/ようになる授業とは

出前授業



目的

- ・こども基本法の観点から、**市内の児童・生徒の意見を次期計画に取り入れる。**
- ・児童・生徒が次期計画をより**“自分事”**として捉え、**自分たちが受ける教育について主体性**をもつ。

実施校

6月11日	赤坂台小学校（小学6年 2クラス）
6月19日	少林寺小学校（小学6年 1クラス）
6月20日	土師小学校（小学6年 2クラス）
6月25日	浜寺小学校（小学6年 委員会）

7月1日	登美丘東小学校（小学6年 2クラス）
7月4日	錦西小学校（小学6年 2クラス）
7月15日	美原北小学校（小学6年 3クラス）
7月16日	庭代台小学校（小学6年 2クラス）
7月17日	福泉中央小学校（小学5年 2クラス）

**それぞれの学校の先生方と打ち合わせをし、
それぞれの児童にあった授業を計画・実施**

出前授業の流れ

例 いくつかの小さな問いについて考える、議論する



- ・教育委員会の仕事について
- ・教育プランについて



- ・議題について、考える



- ・グループで意見を深める
- ・意見をまとめる



- ・ふりかえりを書く

議題例（課題は担任の先生と協議をして決定）

- ・やる気が出る授業はどんな授業？
- ・どんな宿題がならやりたくなる？
- ・どんな給食がいいのか
- ・みんな（堺市の児童）がそれぞれ自分の学校をもっと好きになるために、どんなことができるかな？

すべての意見がかなうわけではないが、様々な意見があるからこそ対話が必要だということ、自分たちの未来を自分たちで作っていくために、意見を持つことやそれを伝えることが大切だということを知る。

①「勉強がんばろう！」とやる気が出る時



どんな時「勉強がんばろう！」とやる気が出てくる？

・ゲームやクイズがある時	・ご褒美をもらえる時	・図工（作る系）がある授業や自由時間がある
・ほめられた時	・自分の考えたものが採用された時	・分からない問題が分かるようになった時
・発表しあう授業	・パソコンを使ってする授業	・問題や課題がすごく理解できた時
・将来役に立つ授業	・インターネットを使って調べる授業	・みんなで協力して何かを作り上げる授業
・好きな教科の時		

「自分で進めていく学び」と「教えてもらう学び」について

自分で進めていく学び	教えてもらう学び	どちらもいい
・今は教えてもらう授業が多いから、自分で調べる授業も増やしてほしい。 ・自分が気になったときに、好きなように勉強をすすめたいから。 ・自分の思った通りに進められるから。 ・先生の話聞いて黒板を写すだけだったら自分はそんなに考えないから頭に入ってこないけど、自分で進めていける授業だったらすべて自分で考えるからそっちの方が大変だけど勉強になると思うし、自分はそっちの方が好きだから。	◇ひとりですると他の人と話してしまうから。 ◇先生に教えてもらう方が失敗しないから。	・分からない時は教えてもらえると新しいことが分かるけど、自分で分かる時には自分ですることもしたい。 ・自分たちだけじゃ解決できない問題もあるし、自分の意見をしっかり伝える場面が少ないから。 ・考えて分からなかった教えてもらう。 ・自分でするときとわからない時は先生に教えてもらう。 ・算数だったら、わからなかったりしたら先生に教えてもらったり、新聞づくりだったら自分たちで調べてまとめたりする。

②学校や教室にあったうれしいもの・安心するもの

安心・安全	設備（せつび）	娯楽（ごらく）
廊下に周りが見えない一人の空間	各階に保健室	ボードゲーム
車いす用のスロープを階段に設置	トイレがきれいになったらうれしい	図書館にマンガを置いてほしい
運動場に緊急用ボタン	水道の温度調節	冷凍庫（水がほしい）
温かい便座	室内で遊べる場所	ウォーターサーバー・自動販売機
温水プール	図書館に本をもっとおいてほしい	生き物とふれあえる場所
すずしい体育館	黒板がテレビになったり、ホワイトボードになったりする	室内植物園
エレベーター		コンビニ
廊下に矢印		通学路ビンゴ
寝場所・ソファ		



③みんながそれぞれ自分の学校をもっと好きになるために

みんながもっと好きになる学校

出前授業 意見まとめ

電子黒板を置く 友達との交流を増やす グループでの交流を増やす
 みんなが言いたいことを言える環境をつくる 授業をゲームのようにする。
 宿題や勉強をしたら、ご褒美をもらえる 休み時間を長くする 得意な教科を増やしていく。
 色んな人と関われるようになるために週に1回、席替えをする 自転車での登下校
 相談しやすい環境をつくる お楽しみ会を3日に1回 給食にデザートが出る
 一人ひとりの長所や短所を理解して、一人ひとりに声掛けをしてくれる先生がいてくれたらいい
 学校に来たら1日1回シールがもらえて枚数に応じてご褒美がもらえる（例：宿題がなくなる）
 職員室の前に1日1回スタンプを押して1ヶ月たまと図書カード100円分をもらえる
 人それぞれ勉強が苦手とかあるから、部屋を別にして苦手な子が授業を理解できるように部屋を作る

ふりかえり・感想（1組・2組）

◇自分の思っていたことをいうことができたし、一人一人の思っていることが違うから面白かったし、楽しかった。
 ◇今日はみんなの意見を聞いたりするのが知れてよかったし、楽しかった。今日は色々なことを知れた!!
 ◇学校はみんなのどこから、みんなの意見を聞くのは大切だと思った。
 ◇みんな、自分だけのことを考えるのではなく、みんな楽しいと思える事を考えていたからとてもいいと思いました。
 ◇もしこんなことが実現したらいいなとか、してくれたからこれが実現したら場のいろいろな学校がよりよくなると思う。
 ◇学校がよりよくなったら、来るのが楽しくなるし今日の授業で自分の思いを伝えることができたからよかった。
 ◇自分の思いを堺市教育委員の人に言えてすごい体験だった。
 ◇これからもっと堺市の教育がよくなってくると思い安心した。
 ◇できないものもあるけど、できそうなものを考えてやってくれるからすごいと思った。すごい楽しかった。
 ◇今回の授業は自分の思いを伝えられるような感じで楽しかった。自分はいつも発表したいけど自信がなくてできないことがあるため、自分の思いや考えが伝わるとうれしい。
 ◇このみんなの考えが叶ったらいと思うし、自分なりの考えを否定せずに聞いてもらえてうれしかったです。
 ◇いつもの授業では考えないことを考えて楽しかった。
 ◇事務局の人はみんなのために色々な工夫をしてくれていてすごかったし、これからもっと学校を楽しみたいと思った。

①「勉強がんばろう！」とやる気が出る時



どんな時「勉強がんばろう！」とやる気が出てくる？

授業が楽しい時	明日テストがある時	勉強についてほめられた時
勉強がおもしろそうな時	字をきれいに書けた時	分からない問題が分かるようになった時
テストでいい点が取れた時	問題が簡単そうだった時	友だちに、はげましてもらえた時
勉強が分からない時	友だちにテストの点をこされた時	問題の内容がしっかりわかった時

「自分で進めていく学び」と「教えてもらう学び」について

自分で進めていく学び	教えてもらう学び	どちらもいい
- 自分でやったほうがやる気が出るし、自分で問題を解けたら達成感があるから - 集中しやすいから - 一人でやる方が達成感がある - 自分からチャレンジして達成感があるから - 自分のペースで勉強できるから - 理解ができた時楽しいから。 - 自分のペースでできるしきちんとわかんないところも調べるから。	一人でやると他の人と話してしまうから	- 自分でやる時、正解したときの気持ちよさがあるし、わからない問題があった時は質問する - やり方を知っている時は自分でできるし、分からない時には、やり方を知りたい - 自分では分からない問題や意味が分からない時は、教えてもらいたいけど、ばって答えが出た時や自分で図を書いたりするときは自分で努力、わからない問題があったときは教えてもらう

②学校や教室にあったうれしいもの・安心するもの

安心・安全	設備（せつび）	娯楽（ごらく）
全部の階に保健室 相談室 教室の机に区切りがあるといい 教室にメダカがいたらうれしい メダカに愛着を持つとメダカのために教室も落ち着くし、生き物が近くにいたら楽しそうだから。 お花や生き物 休み時間になるといつも走っているし、リラックスできるから。 休憩場（教室にソファ）	すべり台（2名） 加湿器 タブレットじゃなくてスマホ 階段にエスカレーターが欲しい。 温かい便座（べんざ） 運動場に日陰をつくってほしい。 ウォーターサーバー	室内で遊べる場所 野球がでける場所 1ヶ月に1回の6時間お楽しみ会 運動場にアスレチック（ブランコ） 体育館に大きいトランポリン 雨の日用のボードゲーム プールにスライダー 室内に温水プール

③みんながそれぞれ自分の学校をもっと好きになるために

みんながもっと好きになる学校

出前授業 意見まとめ

休み時間を増やす 給食の時間を増やす 修学旅行を選べる
 文化祭 行事ごとを増やす（遠足を増やす） 選択肢をもらえてそれで決める
 勉強が苦手な人でも楽しめる環境を作る 苦手な人の意見も尊重する
 もっと授業面白くする班をつくってみんなで勉強する 授業をゲームみたいにする
 お楽しみ会みたいな時間を何日に1回とか決めると学校に少しでも行こうと思う
 今日だけ休み時間が長くなったり、少し早く帰れるイベントみたいな日を作る。
 笑えて毎日が楽しい授業を送れるイベントなどがある学校 好きなイスを使える
 好きな高さの机を使える おやつタイムを作る 授業の内容を選べる
 テストの点数によってポイントとかもらえて、そのポイントを文房具とかに交換できる
 修学旅行の行先を投票で決める（修学旅行2泊3日） 好きな給食（給食バイキングをする）
 1つの科目だけでいいから、それぞれの理解度に合わせたクラス分けをして、それぞれの理解度に寄り添えるようにする。 勉強でわかんなかった問題や相談などを気軽にできる空間

ふりかえり・感想（1組・2組）

◇自分の思っていたことをいうことができたし、一人一人の思っていることが違うから面白かったし、楽しかった。
 ◇今日はみんなの意見を聞いたりするのが知れてよかったし、楽しかった。今日は色々なことを知れた!!
 ◇学校はみんなのところだから、みんなの意見を聞くのは大切だと思った。
 ◇みんな、自分だけのことを考えるのではなく、みんな楽しいと思える事を考えていたからとてもいいと思いました。
 ◇もしこんなことが実現したらいいなとか、してくれたからこれが実現したらみんなのいろいろな学校がよりよくなると思う。
 ◇学校がよりよくなったら、来るのが楽しくなるし今日の授業で自分の思いを伝えることができたからよかった。
 ◇自分の思いを堺市教育委員の人に言えてすごい体験だった。
 ◇これからもっと堺市の教育がよくなってくるといい安心した。
 ◇できないものもあるけど、できそうなものを考えてやってくれるからすごいと思った。すごい楽しかった。
 ◇今回の授業は自分の思いを伝えられるような感じで楽しかった。自分はいつも発表したいけど自信がなくてできないことがあるため、自分の思いや考えが伝わるとうれしい。
 ◇このみんなの考えが叶ったといいと思うし、自分なりの考えを否定せずに聞いてもらえてうれしかったです。
 ◇いつもの授業では考えないことを考えて楽しかった。
 ◇事務局の人はみんなのために色々な工夫をしてくれたりしてすごかったし、これからもっと学校を楽しみたいと思った。

学校現場の教員と教育委員会事務局の職員との意見交換（WG）

目的

- ・次期計画に、**現場で働く教員の意見や思いを取り入れるために、協働的に次期計画を作成する。**
- ・市の教育方針や目標を、「**自分事**」または「**自校の事**」として捉え、市全体で**教育ビジョンを共有**する。

方法

- ・学校園から推薦された**教員がワーキンググループ(WG)に参加。**
- ・できるだけ**教員の負担を減らすため**、オンラインミーティングも含めた**ハイブリッド型のミーティング**を計画。



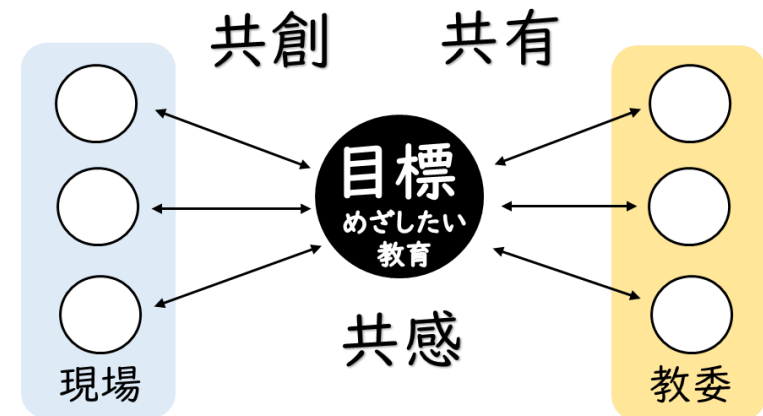
ワーキンググループ（WG）での意見交換（構成：幼・小・中・高・支援学校から30名、事務局19名 計49名）

学校現場からの視点

- ・めざし“たい”こども、学校、教職員の姿
- ・現場の困り感、課題感

教育委員会事務局からの視点

- ・本市、各部課の課題感
- ・市民にとってもわかりやすいものか
- ・めざすべき方向性と、各種施策、成果指標、指標達成が可能な取組か、ロジックが成り立っているか



共に作り上げるプロセスを通じて、
教委事務局と学校園が同じ方向・目標をもち、それ
ぞれの立場で取り組む。
教育プランを「渡されるもの」から、「**自分たちで考え、**
作り、実行していくもの」へ

ワーキンググループの活動（3つの分科会に分かれての取組）

第0回（オンライン）

第1回（2月、3月）

第2回以降（令和7年度）

①

共通理解

それぞれのテーマについて、勤務する中で感じていることや考えていることを共有する。

ねらい

- ・テーマを「身近」な内容に落とし込む
- ・課題観や教育観の違いや同じところを共有し、スタート地点を揃える

②

ゴールの明確化

各テーマのゴールについて共通理解し、めざしたいゴールを明確化・具体化する。

ねらい

- ・テーマの先に見ることも、教員、学校のイメージをより具体的に共有する
- ・同じゴールに向けて、③の活動に進めるように共通理解を深める

③

具体的な活動・取組

②のゴールに到達するために、具体的にどのような活動や取組が必要なのか提案する。

ねらい

- ・ゴールに向かって着実に進めるような道筋を立てる
- ・理想を現実により近づけるために、どのようなことが可能なのか、または難しいのかを共通理解する

④

評価方法

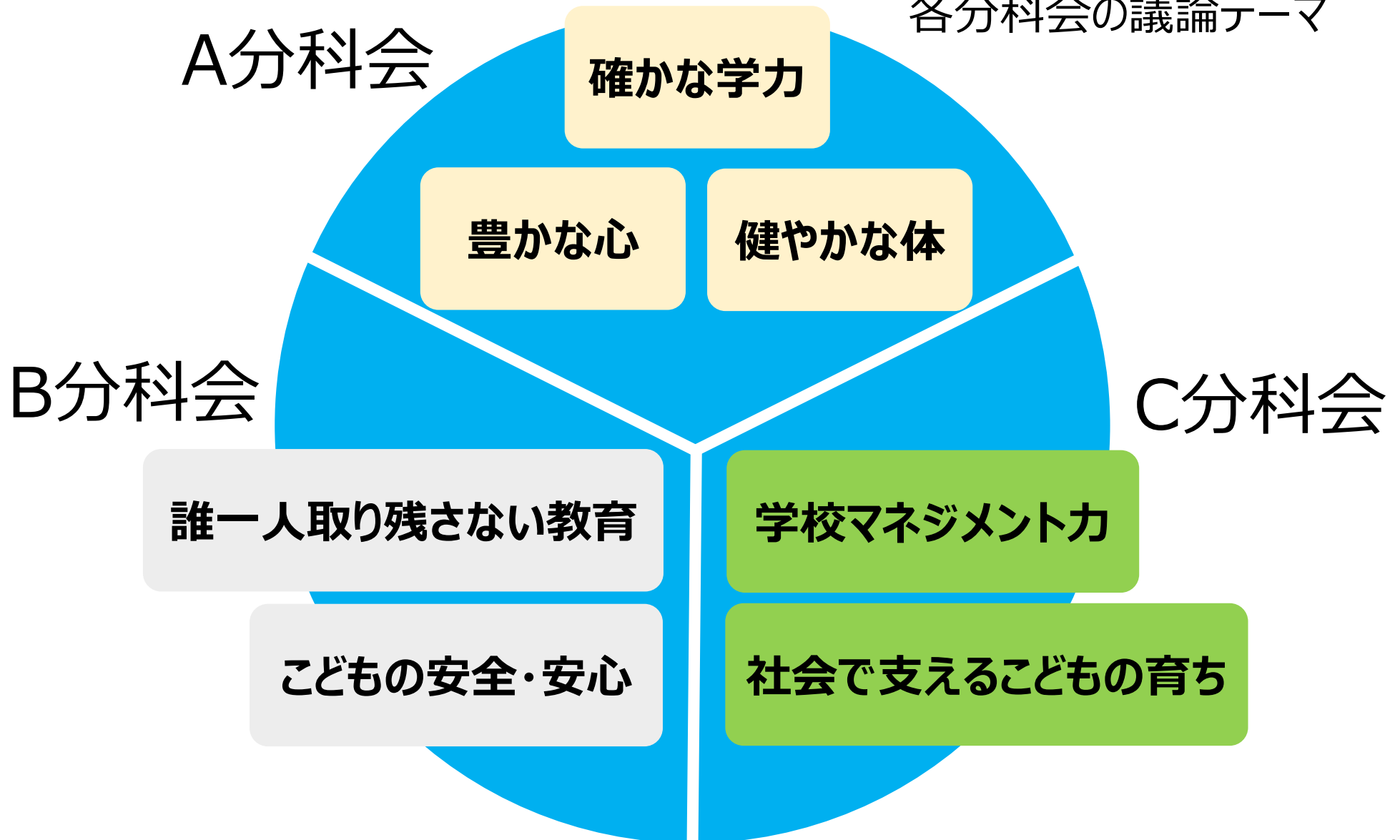
③の活動・取組をどのように評価できるのか、評価方法や指標について考え、提案する。

ねらい

- ・市の施策として、達成度や進捗を評価する方法を理解する
- ・どのような方法なら、学校園や事務局のよい取組が認められ、評価されるのか議論する

次期計画素案の確認

各分科会の議論テーマ

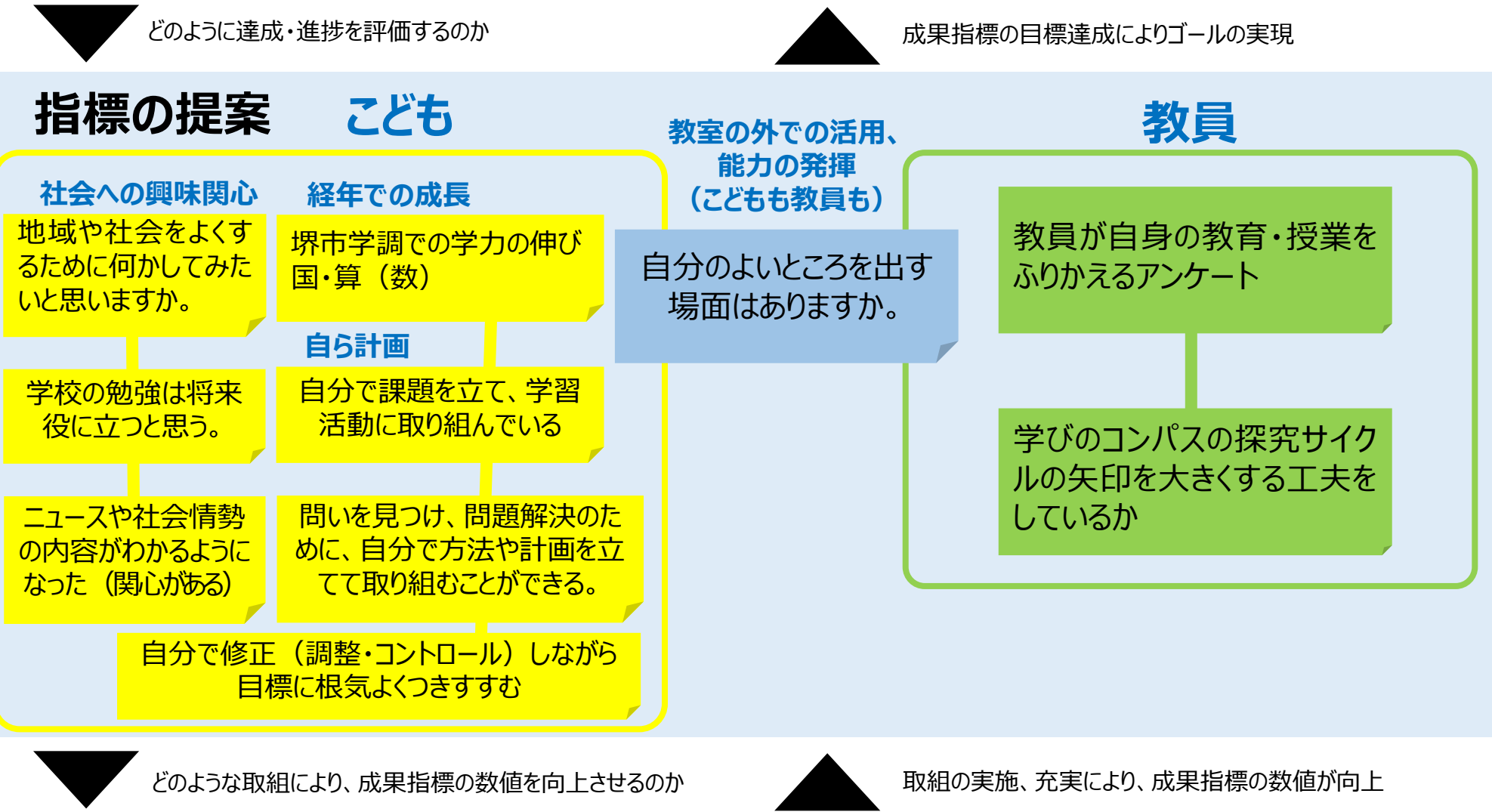


[illegible]

15

確かな学力 に向けためざしたいゴール（第1回WGより）

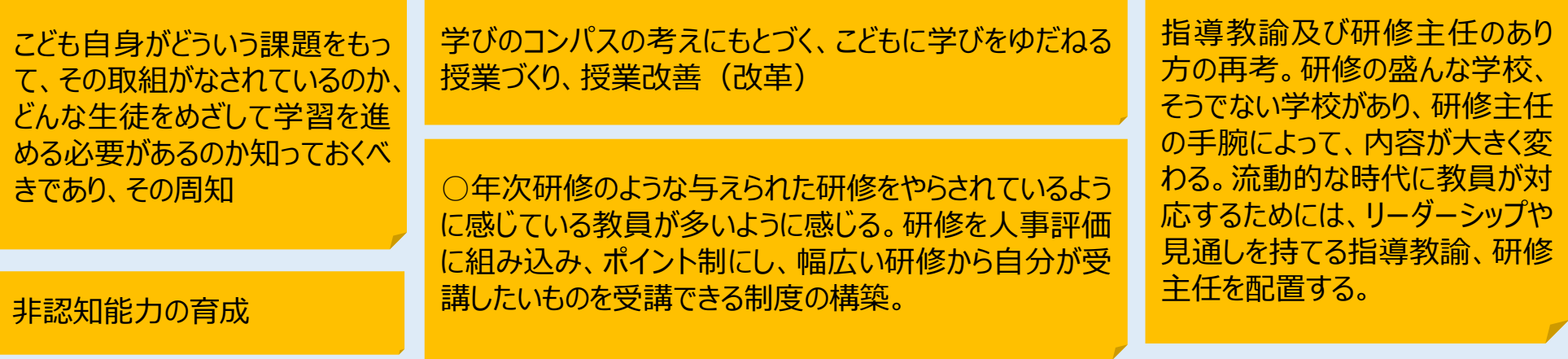
自ら学びを進めることができる力のあるこども



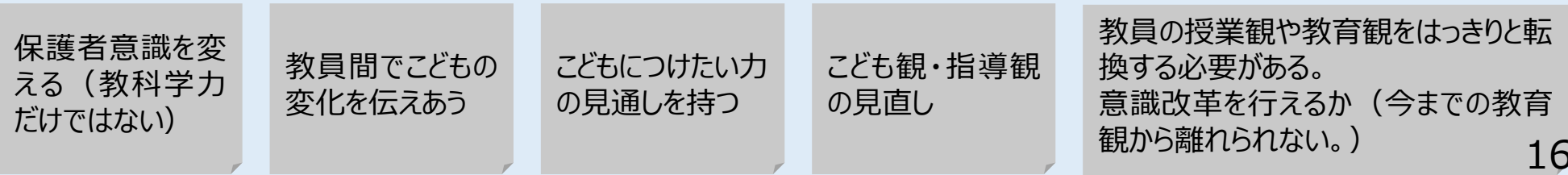
取組の提案 評価 授業が変われば評価が変わる

生徒の評価方法を大きく転換する必要がある。学びのコンパスを意識した授業改善を進めていくと評価の方法で悩むと思う。既存の定期テストやレポート課題の内容を大きく見直す必要がある。

授業 意識が変われば授業が変わる

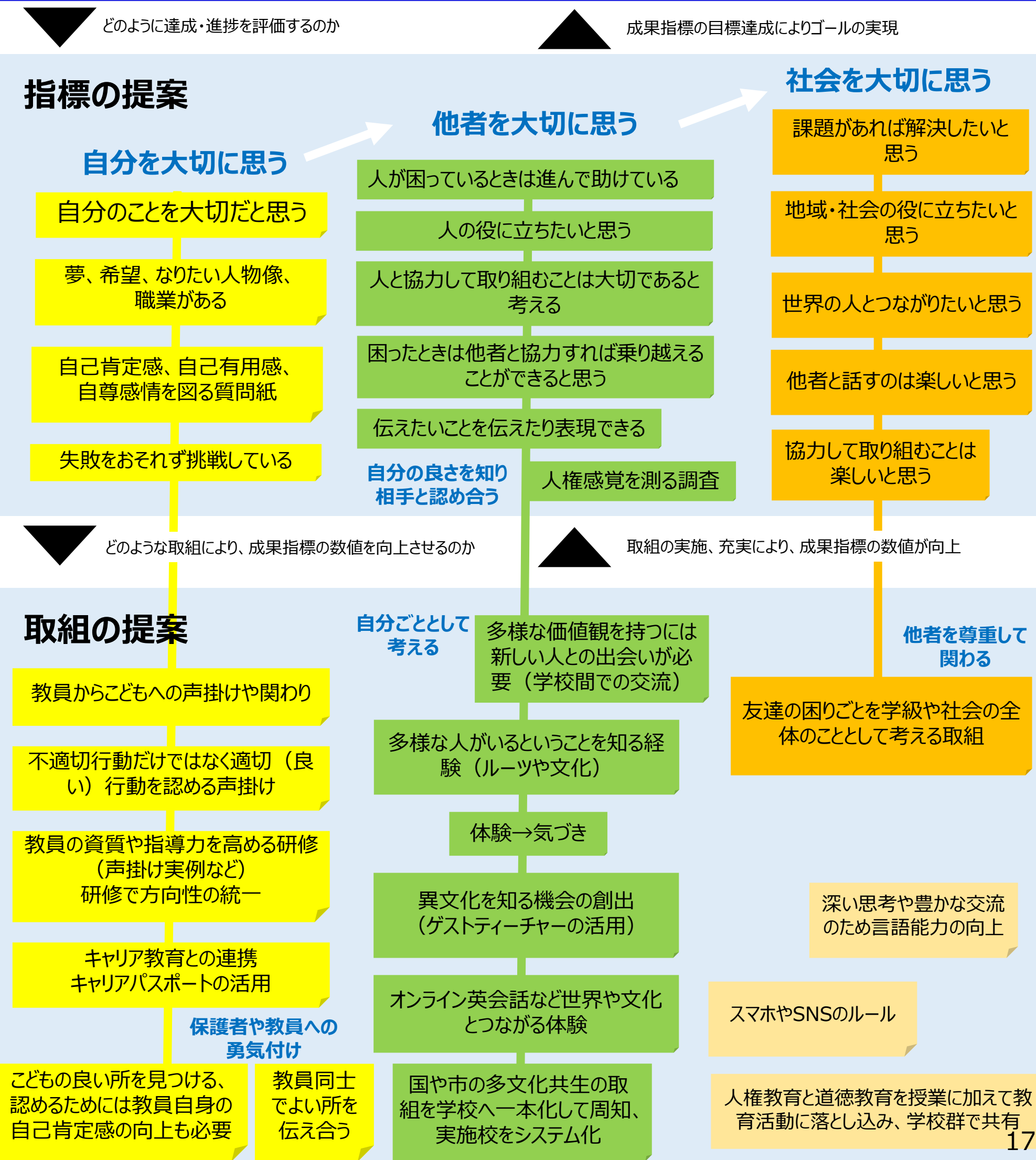


意識 少しのきっかけでこどもが変わることを教員が実感



豊かな心 に向けためざしたいゴール（第1回WGより）

社会に明るく進んでいけるこども
未来を明るく語れるこども



心身の健康を自ら育み守れることも

成果指標の目標達成によりゴールの実現

指標の提案

心の健康

幸福度調査

健康に関心を持っている

食べることが楽しいと思う

スマホや携帯で
ゲーム・動画視聴・
SNSをしている
時間

運動習慣がある

運動やスポーツを習慣的にしている（休みの遊び・部活動を含む）

体を動かすことが楽しい
と思う（習慣化する）

スポーツ・運動へ親しみを
持っている

体の健康

取組の実施、充実により、成果指標の数値が向上

給食を通しての食 体験

みんなく
(睡眠を自己評価
数値の見取り)

発散する術を知る

趣味を持つ

生活習慣を見直すための
各種アンケートの
フィードバック
→気づき

食育・朝ごはん啓
発・HP活用

体験・経験の機会を増やす

学級通信の発行

挨搗運動

HPの活用
保護者とこどもがつな
がるしかけを

保護者を巻き込む 必要がある

いろいろなものにであわせる
体験・経験の機会

生活習慣を形成するための 保護者の巻き込み

こどもが自身の体力や健康について考え、課題を自覚し、対策を考える取組

身体測定やスポーツテストの後に、自身のことを自分はどう思っているのかを振り返る時間を持つ

自分の夢と目標と、自身の身体や生活スタイルや食生活を、つき合わせて見つめる授業をする

取組の提案

こども

どのような取組により、成果指標の数値を向上させるのか

先生からのアプローチ

こどもの安全・安心 に向けためざしたいゴール（第1回WGより）

「居場所」と「学びの場」という基礎・土台の確保及び、
多方向・多方面との連携、連携によって充実させられる取組を行う

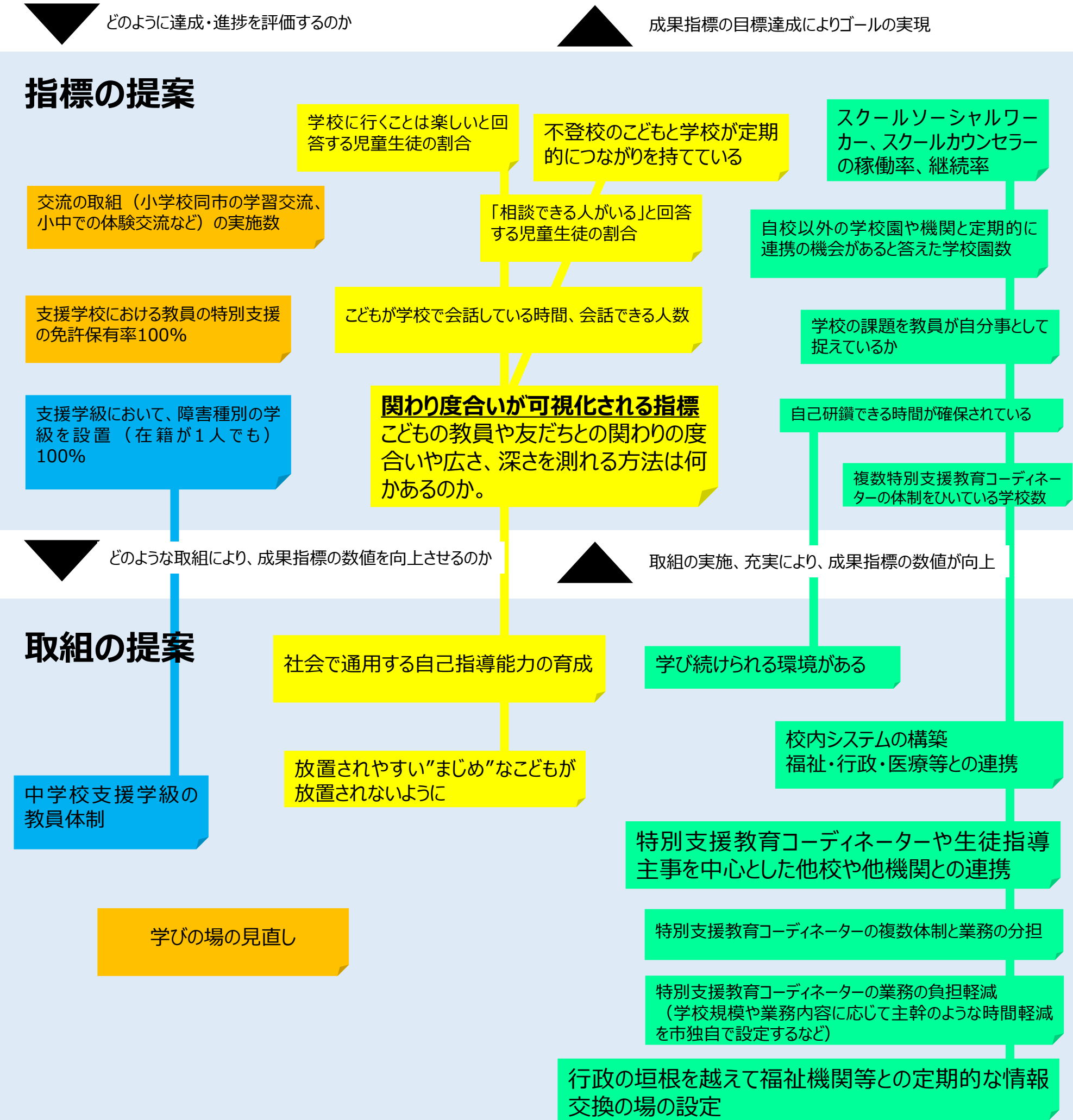


誰一人取り残さない教育 に向けためざしたいゴール（第1回WGより）

社会に出たときに働きつづけるこども 社会とつながりつづけるこども

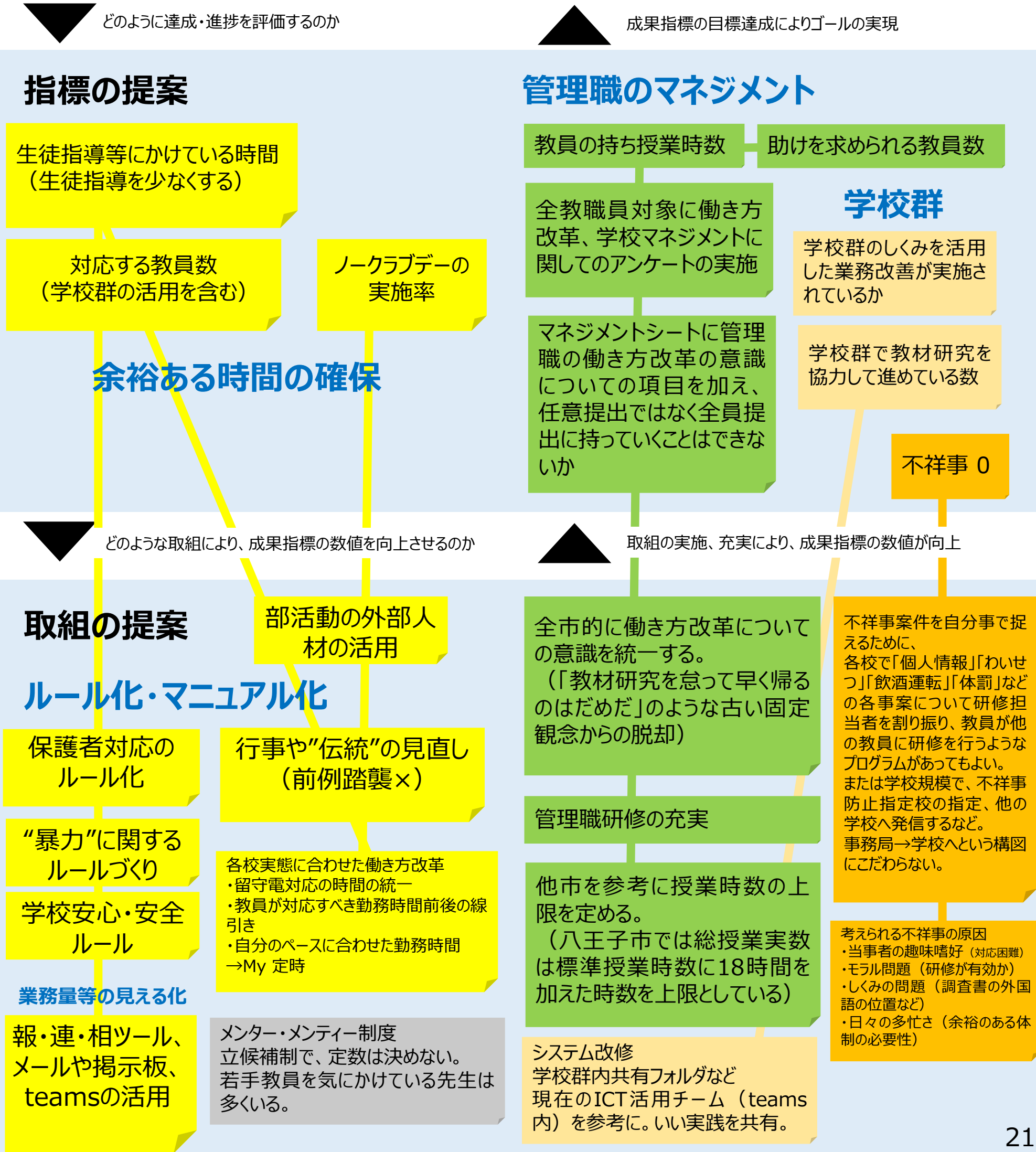
学び続けられる教員・環境 つながろうとする教員

連携がある学校



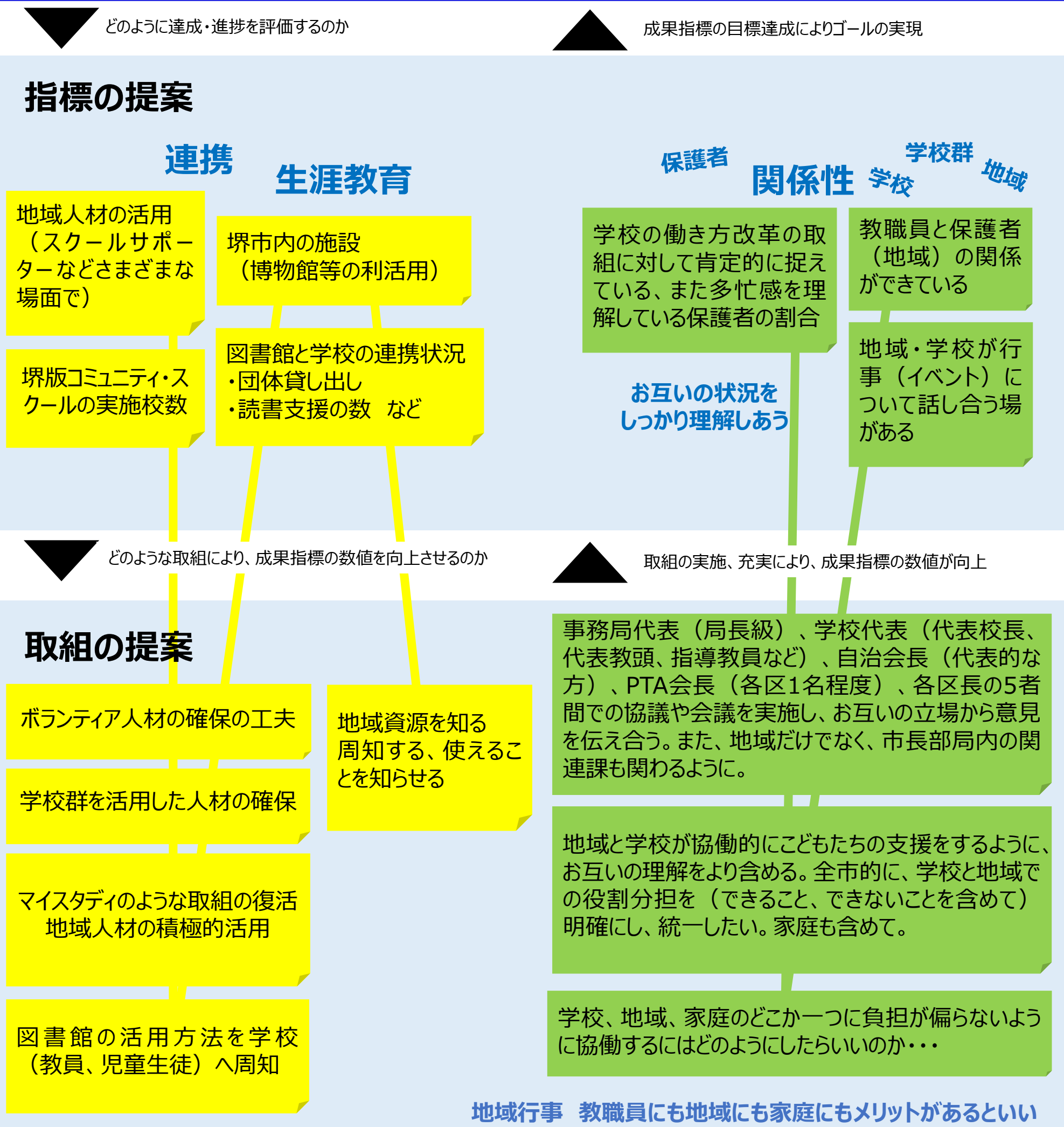
学校マネジメント力 に向けためざしたいゴール（第1回WGより）

時間や精神的に余裕のある体制
（相互支援・相互理解ができる組織）



社会で育てるこどもの育ち に向けためざしたいゴール（第1回WGより）

相互支援・相互理解ができる体制・関係



こども

出前授業後に、クラスごとの意見をまとめた資料を学校に提供。自分たちの意見を振り返ることができるようにフィードバックを実施。

ワーキンググループ

teamsを用いて、ワーキンググループの各グループの協議内容、意見を共有。



+生徒会
リーダーフォーラム



教育委員会事務局で、意見の整理、調整後、次期計画への反映について検討・協議



どの意見がどのように次期計画に反映されるのかをこども、学校園にお示し

意見を集めたままにするのではなく、集めた後にどのように本市教育に生かされるのかを、こどもや学校園に伝え、意義ある取組に

次期堺市教育振興基本計画の 体系について

「わかりやすさ」「読みやすさ」を意識した改定

学校現場、事務局だけではなく、こどもや保護者、市民など「**誰が読んでも理解ができる、納得できる**」ように、「わかりやすさ」「読みやすさ」を意識した改定を行う。

基本的方向性及び基本施策	簡易版冊子の作成	全体構成について
統合整理 基本的方向性 5 基本施策 16 基本的方向性 3 基本施策 9	本編 概要版 NEW こども 向け 簡易版	全4章＋参考資料 113ページ ページ数の削減により 読みやすいボリュームに
第3期プランでは、5つの基本的方向性に16の基本施策を紐づけている。 次期計画では、基本的方向性を「こどもが身に付けてほしい力」、「こどもの学びを支える教師・学校の姿」、「こども、学校を支える教育環境の整備」の3つに整理し、より理解しやすいものをめざす。	次期計画では、こども向けの簡易版冊子を作成し、こどもが内容を理解できるようにする。	全体の構成は大きく変更しないが、ページ数を可能な限り削減し、誰もが「これなら読める」と、手に取りやすいページ数での作成をめざす。

教育理念 ひとづくり・まなび・ゆめ

堺市のめざす教育像

こども像	それぞれの世界へはばたく“堺っ子”
学校像	こどもの未来をつくる学校
教員像	情熱・指導力・人間力を備えた教員

上記目標達成のためにめざすもの

未来を切り拓く力の育成

基本的視点

ウェルビーイング・教育DXの推進・新たな学校のあり方

3つの基本的方向性

こども 教師・学校 教育環境

9つの基本施策

第3期未来をつくる堺教育プラン

(仮称) 第4期未来をつくる堺教育プラン ～未来を切り拓く力の育成～

教育理念

「ひとづくり・まなび・ゆめ」

「ひとづくり・まなび・ゆめ」

めざす教育像

※教育理念・めざす教育像の
具体的な内容については、更新
することを検討中

(1) めざす子ども像

「それぞれの世界へはばたく"堺っ子"」

(2) めざす学校像

「子どもの未来をつくる学校」

(3) めざす教員像

「情熱・指導力・人間力を備えた教員」

(1) めざすこども像

「それぞれの世界へはばたく"堺っ子"」

(2) めざす学校像

「こどもの未来をつくる学校」

(3) めざす教員像

「情熱・指導力・人間力を備えた教員」

プラン推進の基本的視点

(1) 縦につながる教育の推進

(2) 横にひろがる教育の推進

(1) ウェルビーイング

(2) 教育DXの推進

(3) 新たな学校のあり方

プラン推進の基本的視点

- (1) ウェルビーイング
- (2) 教育DXの推進
- (3) 新たな学校のあり方

○全施策を通じて共通となる事項（**ウェルビーイング・教育DXの推進・新たな学校のあり方**）については施策体系に組み込まず、全施策に共通する**基本的視点として位置付ける**。

- (1) ウェルビーイングの実現とは、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなることであり、教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められる。（国の第4期教育振興基本計画）
- (3) 新たな学校のあり方は、中学校区にある小学校と中学校を「学校群」という1つのチームと考え、9年間を見通した“つながる教育”の実践をめざす。

体系整理のポイント

- 第3期プラン及び「子どもたちの未来のために～Change & Challenge～」で掲げる**「未来を切り拓く力」をこどもに育むために**、**3つの基本的方向性とそれに紐づく9つの基本施策**を推進する。
- 全ての方にとっての「わかりやすさ」「読みやすさ」を意識し、誰が・何をするのか読んでイメージできるものとするため、**基本的方向性を「こどもが身に付ける力」・「こどもの学びを支える教師・学校の姿」・「こども、学校を支える教育環境整備」の3つに分けて整理する**。

こどもが身につける力

こどもが心身を成長させ、自ら学び、考え、判断し、行動できる力を育む教育を進めます

プラン推進の
基本的
視点

ウェルビー
イング

教育DX
の推進

新たな学
校のあり方

基本施策	主な取組の要素（案）
1 確かな学力 自ら学び、考え、判断し、行動できる力に加え、グローバルに活躍できる力、情報活用能力、その他新しい時代に必要となる資質・能力を育てる。 【ゴール】自ら学びを進めることができる力のあるこども	■「学びのコンパス」に基づいた授業改善 ■グローバル化に対応した人材の育成（英語教育、子ども堺学、国際理解教育、情報活用能力の育成） ■教科等横断的なカリキュラムの充実 ■読解力の向上に向けた取組 ■学校図書館の効果的な活用（小・中・支援学校への学校司書配置、市立図書館との連携） ■各種学力調査の活用の推進 ■探究的な学びの充実 ■家庭学習習慣の形成 ■ゆめを実現する高等学校教育の推進 ■幼～高 縦横につながる連携・接続への取組、幼保小連携・架け橋期のプログラム ■デジタル教科書、教材、学習支援ソフトの活用に向けた取組の推進
2 豊かな心 自分のよさや可能性を知り、多様な価値観を認め、相手の立場を思いやり大切にし、自分たちの未来へ希望が持てる豊かな心を育てる。 【ゴール】社会に明るく進んでいけるこども、未来を明るく語れるこども	■豊かな情操を育む取組の充実（道徳教育、堺・スタンダード） ■人権教育の推進（人権教育、性暴力被害の防止、いじめの未然防止、安全教育、情報モラル教育） ■キャリア教育の充実 ■読書活動の推進 ■体験活動（文化芸術・自然・スポーツ・社会）の充実 ■地域や企業と連携した取組による体験・交流活動の推進
3 健やかな体 自分の健康に関心を持ち、正しい知識をもとに、目標に向かって自己改善と良い習慣を継続することができ、生涯にわたり主体的に心身の健やかさを育てる。 【ゴール】心身の健康を自ら育み守れるこども	■体力向上（大学と連携した体力向上モデル実施） ■食育の推進 ■基本的な生活習慣（保健指導の推進、睡眠教育、スマホ使用時間） ■学校給食の提供を通じた健康な体の育成・体力の向上 ■運動に親しむこどもの増加に向けた取組 ■保健指導の推進

こどもの学びを支える教師・学校の姿

誰一人取り残さず、こどもの学びを支えます

プラン推進の
基本的
視点

ウェルビー
イング

教育DX
の推進

新たな学
校のあり方

基本施策	主な取組の要素（案）
4 学校マネジメント力 R-PDCAサイクルを活用した教育課程の継続的な改善を基盤に、教職員の資質・能力の向上、働きやすく働きがいのある職場環境の整備、業務の効率化・適正化を推進する。また、未来をつくる堺の誇り（PRIDE）により不祥事ゼロをめざす。 【ゴール】すべての教職員と児童生徒が安心して学び、働き、成長できる学校の実現	■ 働きやすく「働きがい」のある学校の実現 ■ 教員業務支援員等の効果的な配置 ■ 小・小、小・小の連携による校務の効率化 ■ 時間的・精神的に余裕が生まれる校内体制、マネジメント ■ 不祥事の未然防止対策の徹底（未来をつくる堺の誇り） ■ R-PDCAサイクルによる学校経営の推進・教育課程の充実 ■ 教員研修の充実 ■ 優秀な教員の確保と教員養成期を含めた人材の育成に向けた大学等との連携 ■ こどもの意見が反映される学校マネジメントの推進
5 誰一人取り残さない教育 社会とつながりながら成長することもたちを育むために、こどもの多様な個々の状況や思いなどに対応することができる教員の専門性や指導力の向上と、それらを可能にする教育環境の充実や関係機関との連携・協働により、こどもの学びの機会を保障し、多様な学びの場と学習方法を提供する。 【ゴール】社会とつながりながら成長することもたちを育むために、学び続ける教員、つながろうとする教職員、それらを支援する環境や連携がある学校の実現	■ 不登校等のこどもへのサポート（ICTの効果的な活用） ■ 特別支援教育の充実 ■ 日本語指導（日本語指導が必要なこどもへのサポート）の充実 ■ 中学校夜間学級による教育の充実
6 こどもの安全・安心 学校がそれぞれのこどもにとって身体的、精神的に安心できる場となり、それを土台に学校が多様な主体と連携しながらこどもの安全・安心を支える取組を進める。 【ゴール】安全・安心な居場所という基礎・土台の確保と、多様な主体との連携によってこどもの安全・安心を守る学校の実現	■ 校内教育支援教室・校内教育相談体制の充実 ■ 安全・安心でおいしい学校給食の提供 ■ 登下校における交通安全や防犯対策 ■ いじめの未然防止、いじめ対応の徹底 ■ 学校安全の推進 ■ 児童虐待への迅速かつ適切な対応 ■ 性暴力被害の防止（教職員研修）

こども・学校を支える教育環境の整備

こども中心に取り巻くすべての人が連携・協働し、豊かな学びを支える教育環境を充実させます

プラン推進の
基本的
視点

ウェルビー
イング

教育DX
の推進

新たな学
校のあり方

基本施策	主な取組の要素（案）
7 教育環境の充実 学校規模の適正化や、体育館空調・トイレ等の学校施設の計画的な整備、点検・保守・改修等を行い、すべてのこどもや市民にとって安全・安心で過ごしやすく、学習や活動の取り組みやすい教育環境の充実をめざす。 【ゴール】すべてのこども、教員が適切かつ効果的に学習を行うことができる環境の充実	■ 学校規模及び学校配置の適正化 ■ 学校施設・設備の計画的な整備 ■ 学校のICT環境の維持・最適化
8 こどもを取り巻く社会的課題への対応 社会で起きている様々な課題の中でも、特にこどもを取り巻く社会的課題へ対応するため、他機関等との連携・協働により、支援体制を整備する。 【ゴール】こどもを取り巻く複雑かつ多岐にわたる社会的な課題に対応するための体制の整備	■ 教育の機会均等に向けた経済的負担軽減の取組を推進（就学援助、堺未来応援奨学金等） ■ 不登校のこどもへのサポート（教育支援教室、不登校支援ネットワーク） ■ 学校外の相談体制の充実（教育相談、区役所の教育相談、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー、いじめ不登校対策支援室、支援教育課、いじめネット相談窓口等）
9 社会で支えるこどもの育ち 学校・家庭・地域がつながり、多様な機関や団体と効果的に連携・協働を行うことで、学校教育だけでなく生涯学習の観点も含めて社会全体でこどもを育む取組を充実させる。 【ゴール】相互支援・相互理解ができる地域とのつながりの醸成	■ 地域住民や多様な機関・団体等との連携・協働（市役所内の部局間連携、市役所外の多様な主体との連携、学校や教育活動に関する情報の公開と発信による信頼の構築） ■ 堺版コミュニティ・スクールの推進 ■ 地域学校協働活動 ■ 市民の学習支援（図書館サービスの充実、読書活動の推進、学校施設の開放、教育CSR推進事業、科学に関する市民の学習支援） ■ 中央図書館の再整備 ■ 家庭教育支援 ■ 社会教育関係団体（PTAやこども会など）の諸活動への支援 ■ 部活動の地域連携・地域展開 ■ 放課後児童対策等事業の推進 ■ 地域産業・社会に貢献する高等学校教育の推進

次期堺市教育大綱との整合性

次期堺市教育大綱

基本理念

**未来を切り拓き、
個々の幸せを実現する堺の教育**

○ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。（第4期教育振興基本計画より）

次期堺市教育振興基本計画

（仮称）第4期未来をつくる堺教育プラン

～未来を切り拓く力の育成～

教育理念

ひとづくり・まなび・ゆめ

豊かな心の
人づくり

確かな学びの
形成

ゆめをはぐくむ
教育の推進

プラン推進の基本的視点

- （1）ウェルビーイング
- （2）教育DXの推進
- （3）新たな学校のあり方

次期堺市教育大綱

重要方針

I 堺の歴史文化を受け継ぎ、広い視野を身につけ、自ら未来を切り拓く

II 自分を大切にし、違いを認め合い、ともに成長する

III 児童生徒、教員の力を伸ばす

次期堺市教育振興基本計画

基本施策

1 確かな学力

2 豊かな心

3 健やかな体

4 学校マネジメント力

5 誰一人取り残さない教育

6 こどもの安全・安心

7 教育環境の充実

8 こどもを取り巻く社会的課題への対応

9 社会で支えるこどもの育ち

次期堺市教育大綱

重要方針

I 堺の歴史文化を受け継ぎ、広い視野を身につけ、自ら未来を切り拓く

- ◆堺の歴史を知り、伝統や文化、イノベーション精神など堺の土台を継承してこどもの可能性を伸ばす
- ◆こどもが基本的な学力を確実に習得し、英語やICTなどこれからの時代に必要な手段を使いこなす力を身につける
- ◆こどもが自ら考え、創造し、表現する力を身につける
- ◆健やかな成長を支え、創造的に活動をする心と体を育む

次期堺市教育振興基本計画

基本施策

1 確かな学力

自ら学び、考え、判断し、行動できる力に加え、グローバルに活躍できる力、情報活用能力、その他新しい時代に必要となる資質・能力を育てる。

2 豊かな心

自分のよさや可能性を知り、多様な価値観を認め、相手の立場を思いやり大切にし、自分たちの未来へ希望が持てる豊かな心を育てる。

3 健やかな体

自分の健康に関心を持ち、正しい知識をもとに、目標に向かって自己改善と良い習慣を継続することができ、生涯にわたり主体的に心身の健やかさを育てる。

次期堺市教育大綱

重要方針

Ⅱ 自分を大切にし、違いを認め合い、 ともに成長する

- ◆こどもが自他ともに尊重できる心を養う
- ◆いじめや児童虐待への対応を強化する
- ◆すべてのこどもの置かれた状況に関わらず、学びの機会を確保する

次期堺市教育振興基本計画

基本施策

2 豊かな心

自分のよさや可能性を知り、多様な価値観を認め、相手の立場を思いやり、大切にし、自分たちの未来へ希望が持てる豊かな心を育てる。

5 誰一人取り残さない教育

社会とつながりながら成長するこどもたちを育むために、こどもの多様な個々の状況や思いなどに対応することができる教員の専門性や指導力の向上と、それらを可能にする教育環境の充実や関係機関との連携・協働により、こどもの学びの機会を保障し、多様な学びの場と学習方法を提供する。

6 こどもの安全・安心

学校がそれぞれのこどもにとって身体的、精神的に安心できる場となり、それを土台に学校が多様な主体と連携しながらこどもの安全・安心を支える取組を進める。

8 こどもを取り巻く社会的課題への対応

社会で起きている様々な課題の中でも、特にこどもを取り巻く社会的課題へ対応するため、他機関等との連携・協働により、支援体制を整備する。

次期堺市教育大綱

重要方針

Ⅲ 児童生徒、教員の力を伸ばす

- ◆ 児童生徒にとって効果的な教育環境を構築する
- ◆ 熱意と指導力を持つ教員を育成する
- ◆ こどもの学びや育ちを支える

次期堺市教育振興基本計画

基本施策

4 学校マネジメント力

R-PDCAサイクルを活用した**教育課程の継続的な改善**を基盤に、**教職員の資質・能力の向上、働きやすく働きがいのある職場環境の整備**、業務の効率化・適正化を推進する。また、未来をつくる堺の誇り（PRIDE）により不祥事ゼロをめざす。

7 教育環境の充実

学校規模の適正化や、体育館空調・トイレ等の学校施設の計画的な整備、点検・保守・改修等を行い、**すべての子どもや市民にとって安全・安心で過ごしやすく、学習や活動に取り組みやすい教育環境**の充実をめざす。

9 社会で支えるこどもの育ち

学校・家庭・地域がつながり、多様な機関や団体と効果的に連携・協働を行うことで、学校教育だけでなく生涯教育の観点も含めて**社会全体でこどもを育む取組**を充実させる。